

校長室だより



令和5年11月24日

No.21

紅葉の便りが届く季節になりました。寒暖差で鮮やかな紅葉ができるといいますが、今年のような猛暑や急な寒さの影響がどうなのか心配なところですね。京都などの観光地はかなりの人出になっているようです。

前回の校長室だよりではほんごう祭のご報告をさせていただきましたが、舞台発表のことでスペースを取ってしまい、金曜日に行われた作業班販売のことが2行ほどの駆け足になってしまいましたので、あらためて報告させていただきたいと思います。

作業班は中学部に5つ（陶芸、農園芸、手芸、工芸、紙工）、高等部に6つ（農園芸、手芸、工芸、陶芸、木工、プリント）あり、中学部は週2コマ、高等部は週4～5コマの授業があります。その授業時間にこつこつ作った作品や育てた作物を販売します。この作業の時間は技術を身につけるといことが大きな目的ではなく、作業に取り組む意欲や姿勢を育て、社会生活につなげていくということが中心的なねらいになっています。生徒さんの希望やニーズに合わせて作業班に所属し、縦割り体制（学年ではなく1～3年生が混在しています）で行います。各作業班では伝統的に取り組む作業内容はありますが、やはりその年度の所属生徒さんそれぞれの実態や目指すところなどを勘案して作業の内容を決めていきます。春先のスタート時には、道具の名前や扱い方など基本的な学習から始まり、だんだん難しい内容になっていきます。あわせて、先生の支援や言葉かけも少なくなると一人で取り組めることが多くなり、セッティングから仕上げまで自分でできるくらいになる生徒さんもいます。だんだん複雑、高度になる内容に苦戦しながらも、今回販売したようなみごとな仕上がりの作品、作物となります。

また、先生たちも（一部の方を除いて）決してその作業種の専門という訳ではないので、実は陰で自主研修や練習を重ね、生徒さんの指導、支援にあたるよう準備します。（私も夏休みなどはよく木工室にこもったり、シルクスクリーンと格闘したりしました…）そうやって出来上がった作品や作物を自分たちで売ることが大切な経験となります。経済の基本というか社会生活の経験というか、物を作って、作ったものを売って、そしてお金を得るといことは卒業後に向けても意味の大きな学習の一つになりますね。生徒さんたちは「いらっしゃいませ」「安いですよ」と声をかけ、作品や作物が売れてお金になっていくことを目の前で見体験することができたと思います。この売上金は（使用した材料費代として）市教委に戻入していますが、ずっと昔はこの売り上げで後日、みんなファミレスに行ってスイーツを食べたりもしたものです。（その方がより経済の仕組みの学習になったような気がします…。）

お皿、トレイ、のれん、カレンダー、鉛筆立て、小物入れ、大根、ピーマン、トートバッグ…小学部の子どもたちもじっくり選んで、楽しそうにお買い物をしていました。来年くらいには保護者や地域の皆さんも「ほんごうマーケット」にご招待をできたらいいなと思います。



グラウンドの夏みかん だいぶ黄色になりました